

今年度、最終号となりました。1年間本当にありがとうございました。
今後も研究内容や「フレッシュせんせい教師力アップ教室」について、
発信していきたいと思っております。来年度も、ぜひご覧ください。

よろしくお願いいたします



第24回 教育研究発表会



令和5年2月17日(金)第24回教育研究発表会を開催しました。本年度は、集合とオンラインのハイブリッド開催となりました。京都市立学校園をはじめ、全国からも多くの方にご参加いただきました。これまで研究にご協力いただいた研究協力校の校長先生をはじめ、教職員の皆様、子どもたちにはこの場を借りて心より感謝申し上げます。



研究発表動画・研究論文・成果物・京都発！については、3月下旬に研究課 Web サイトに掲載します。
ぜひご覧いただき、各校での実践にご活用ください。

京都市総合教育センター研究課



こちらからも
アクセスできます。

〈中学校 自己調整力〉

家庭学習と授業の相互で目指す学習を自己調整する力の育成
～認知的方略の汎用的な活用を通して～

研究員:久保田 守

生徒が主体的に学習に向かうために!

こんな生徒はいませんか?

学習課題を解決する際に「どのように考えればいいのか?」
学習内容の理解や思考を深めるための方法である学習方略
を生徒たちは備えているでしょうか?

「どう考えたらいいかわからない」
「一人だとできない・・・」
「やる気が起きない・・・」



自分自身の記憶や思考など認知的なプロセスを調整
することで効果的な学習を促す学習方略

- A 援助要請方略 (人と協力する)
- B リハーサル・記憶方略 (繰り返す)
- C リソース活用方略 (図や表を活用)
- D 体制化方略 (分類, まとまりをつくる)
- E 意味理解方略 (解き方や意味理解)
- F 関連づけ方略 (既習内容と関連づけ)



六つの学習の仕方をそもそも知らなかった。
だから、家で勉強する時は暗記ばかりをして
いた。**勉強の仕方を知って、使っていくうち
に使えるようになっていた。**

学習方略を知り、これらの中から学習課題を
解決するための適切な方略を生徒が自己選
択し活用する経験を積むことで、
生徒の「**学習を自己調整する力**」
を伸ばしていきました。



研究実践の詳細が知りたい方は、掲載されているQRコードから研究課のHPにアクセスしてください!

〈小・中学校 日常的な OJT〉

「学び続ける教師」を育む日常的な OJT の活性化
～一人一人の教職員の資質・能力と学校の組織力の向上を目指して～

研究員:大上 由加里

OJT を有効に機能させる三つの要素

OJT に関するアンケートと聞き取り調査により収集した各校の取組から共通点を見だし整理した結果、
OJT を有効に機能させるためには、**学校長の的確なマネジメントの下**、次の三つの要素を含んだ取組を
行っていくことが重要ではないかと考えました。

1. 明確な課題の共有による全員の参画と動機付け

- 全教職員で、自校の分析を実施
- 教職員の声を取り入れたグラウンドデザインの設定

2. 伝承や育成を意識した組織づくり

- ファシリテーターの設置 ○メンター制
- 教科担任制、授業の縦もち

3. 多様な学び合いの機会の設定

- 一人一人の強みを生かした学び合い ○若手教職員を中心とした学び合い
- 日々の学年会や教科部会での学び合い ○ICT 機器を活用した学び合い



- ・トップダウンとボトムアップの使い分け
- ・一人一人の教職員を知り、力を生かした役割分担
- ・学校長自ら常に新たなことに目を向け、行動
- ・教職員の頑張りやよいところを発信



☆アンケート結果や研究の詳細については、研究課HPより、論文・成果物等をご覧ください。

裏面に続きます

〈中学校 個別最適な学び・協働的な学び〉
 数学科における「個別最適な学び」と「協働的な学び」の授業の在り方を求めて
 ～課題を選択し自立的に学び合う授業の提案～
 研究員:寺井 淳

生徒が自己選択・決定できる授業デザイン

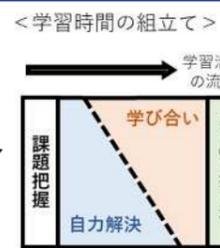
クラスにこのような生徒はいませんか？



問題の答えは出せているのに、どのように求めたのか考え方をうまく説明できない

生徒一人一人が自分に適した「学習道具」「学習形態」「学習場所」を選択し、単元末には「学習課題」も選択できるような授業デザインに変えることで主体的な学習者となり、考える力や説明する力を伸ばすことができるのではないかと考えました。

生徒が自分に合ったペースで学習活動を進め、学びが深まる授業デザイン



指導者が適切な準備と支援を行うなどの役割を果たしながら、生徒に委ねる時間を段階的に増やすことで、単元で学んだ知識や技能を活用し、他者との学び合いを行うなど生徒が自分に適した学習方法で学びを進め、数学的な見方・考え方を働かせ、自立的・協働的に課題解決する力を伸ばしていきました。実践の詳細は研究課のホームページをご覧ください。



〈小学校 個別最適な学び・協働的な学び〉
 算数科における「個別最適な学び」と「協働的な学び」の授業の在り方を求めて
 ～課題を選択し自立的に学び合う授業の提案～
 研究員:梶村 契

学習方法や学習課題を委ねる授業デザインを通して

「個別最適な学び」や、他者と考えを深める「協働的な学び」

自分に適した学習方法(学習道具、学習形態、学習場所)を自己選択できる授業をデザイン

- 一人じっくり考える
- わからないところを友だちと一緒に話し合う

一人一人に適した学び方で
 →理解を深める
 →説明する力を高める

教師の役割



- 一人一人の児童の見取り
- 子どもたちだけでも理解できるような個別の支援

いまの勉強は、一番やりたいのを先にできるのでわくわくドキドキできるのでうれしい！みんなで行動することもよし。一人でどんどん進めるのもよし。自由に進められるのがいい。算数が前よりも好きになった。(4年生児童)

友だちの意見の意味がわからなかったら何度も聞けるから理解しやすいし、友だちに何度も説明するから説明する力がついた。(6年生児童)

畑や農園の面積を求められたら、野菜の収穫量を求めることができるのではないかと。(4年生児童)

図工の絵をぬるときに比の考え方を使えば同じ色を出せることがわかった。(6年生児童)



単元末学びを生かす学習

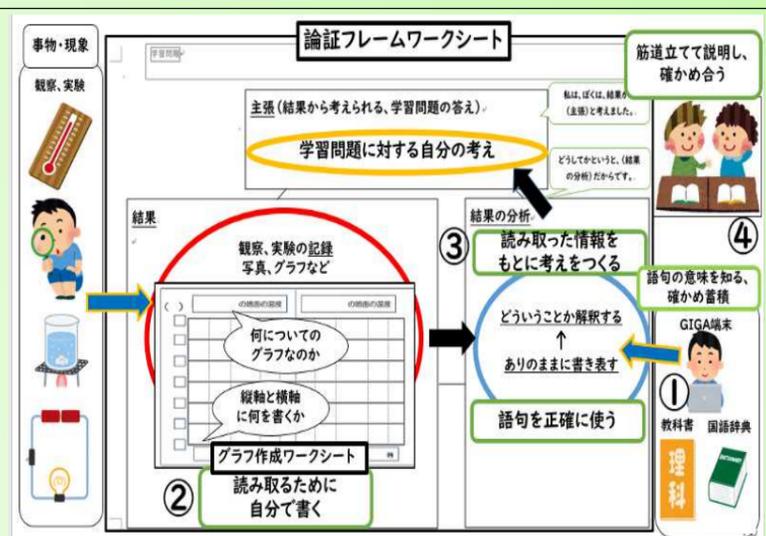
・社会生活の場面に近い学習課題
 →数学的な見方・考え方を働かせる 算数の授業以外でも

学習方法を委ねる授業実践や、学びを生かす学習課題について論文や成果物にまとめています。興味のある方は、是非研究課HPへアクセスしてみてください。

〈小学校 読み解く力〉
 読み解く力の育成(小)
 ～理科を通した読み解く力の育成に視点をおいた授業提案～
 研究員:中村 寿樹

情報を取り出し、考えをつくり、筋道立てて説明する力を高めるために

すべての児童が学習問題について自分の考えをもち、筋道立てて説明し合えるように、具体的な事象やその記録から情報を取り出し、それらを活用して考え、言葉を正確に使って表すことができるようなステップを工夫しました。



児童が体験的に学ぶことを大切にしつつ、教科書を活用しながら、

- ① 語句の意味を知り、語句を正確に使う。
- ② グラフ作成ワークシートを用いて、グラフを自分で作成することにより、グラフの読み方を身に付ける。
- ③ 論証フレームワークシートを用いて、グラフなどの資料から読み取った情報をもとに考えをつくる。
- ④ 考えを筋道立てて説明し合い、お互いに筋道を確認、より正確な説明へと修正する。

を繰り返すことで、現象や図表等から情報を取り出し、筋道立てて説明する力を高めることにつながりました。



研究実践の詳細については、掲載されているQRコードなどから研究課のHPにアクセスしてください。

〈中学校 読み解く力〉
 読み解く力の育成(中)
 ～理科を通した読み解く力の育成に視点をおいた授業提案～
 研究員:中村 洋平

教科書の一文一文を読む

《発生する気体の性質に注目して実験する授業で》



読み解きチャレンジ

- Q. 酸素の性質である「助燃性」とは、どのような性質か。
- 燃えているものを燃やす性質
 - 燃える性質
 - ものを燃やす性質【正答】
 - 燃えるものと一緒に燃える性質

気体の性質に注目した読み



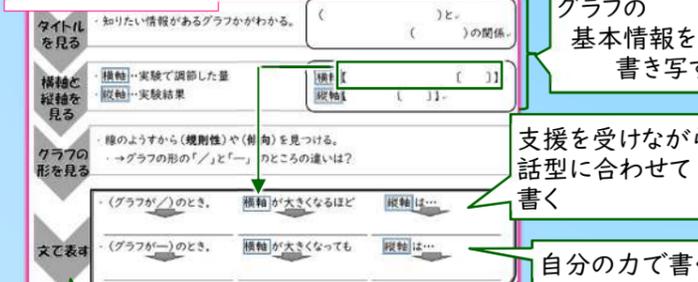
多くの生徒は語句や文の意味をはっきりさせたうえで授業の展開に臨むことで、学習の効果を実感していました。生徒が自ら教科書を読み解く姿は、3学期にも継続して見られているようです。

実践の詳細を知りたい方は研究課のHPにある論文、成果物等をご覧ください。



グラフから情報を取り出す

グラフ読み取りガイド



読む手順

グラフの基本的な情報を書き出し、それを使って説明することを促すワークシートです。話型を徐々に減らすことで、生徒は自分の力でグラフから変化の様子を説明できるようになりました。

グラフの基本情報を書き出す

支援を受けながら話型に合わせて書く

自分の力で書く